

裕さんへ

さくら なおき

子供の頃、大の苦手だった音楽の時間。

裕さん、いかがお過ごしですか！

通信簿の評価欄に「著しく音程が狂う」と書かれていましたから推して知るべし。そんな私ですが十年ほど前から、酒

裕さんが旅立ったとき私は四十歳。ひと回りも年長の裕さんですが、それが徐々に近づきそして五十二歳の同い歳になり、今ではとうとう裕さんが五歳も年下になってしまいましたよ。

席のともなう会合に出るようになり、お酒は好きでも酒量の少ない私が間を持って余したとき、カラオケが救いの神になりました。何しろ唄っている間は飲まなくてもいいのですから。

まったく時の移ろいというものは……そうそう、時の移ろいは、という出だしの裕さんの歌がありますよね。みんな誰かに愛されて、そして誰かを愛して……この言葉が私には、包容力のある裕さんそのもののように思えるのです。

そのとぎのために備え準備をした一曲。それが裕さんあなたの歌「赤いハンカチ」でした。でも私が唄う直前に、他の人が……あーあ、それも私よりずっと上手に。これではいけない、曲数を増やしておかねばと。

その格好の場が通勤時の往復一時間 別「い」の欄を真つ先に開いている私。

のマイカー車内、車にはオートチェンジ 裕さん！

ヤーのCDが、それにカセットテープも これからも私の唄声そちらで聴いて  
聴けるようにセットしてあります。覚えて下さいね。

たい曲目をリピートボタンで繰り返して  
繰り返して聴くのです。何しろ一曲覚える  
のに何ヶ月もかかる私ですから。ようやく  
く裕さんの唄声についていけるようになり、次にどうにか一人で唄えるようになつてと、この過程がまた実に楽しいのです。すっかりやみつきになつてしまいました。

いまもって画面にでる文字色の誘導  
に頼って唄っている私ですが、軽くお酒  
を飲みながら、分厚い歌詞カードの歌手